



つどいの樹

第2号

～ 学ぶ会だより～

2020年12月1日発行



出羽三山供養塔

2枚の写真に注目して頂きたい。どちらも出羽三山供養塔であるが、違和感がないだろうか。すぐにお気づきになると思うが、三山の名前の場所が違っている。中心に彫られた名前が2種類あることに注目して頂きたい。違いに気づくと、次になぜこのような違いが生まれののだろうかという疑問が生まれる。

私が所属する歴史サークルの見学会でのこと。何度目かの見学会の時に何気なく「なぜ、中心の山の名前に違いがあるのか？」と同行の先生に尋ねてみた。先生の言によると、湯殿山が中心にある碑は江戸時代から明治初期の建立がほとんどである。対して月山が中心にある碑の建立年代は明治以降のものであり、この違いは明治になって起きたできごとと関連しているとのこと。つまり、国家神道の強制と神社の序列化である。「どのように関わるのか?」「なぜ、順序が変わったのか?」疑問は尽きません。

(写真・文：遠藤 茂)



虹いろの風が吹く教室

山田 麗子 (「学ぶ会」副代表理事)

会員みなさまに、本年度教科書採択の結果をご報告します。学び舎は36校に、約5100冊が採択されました。コロナ禍で営業の学校訪問をすることができず微減となりましたが、5000冊を超えたことにほっとしています。新しい教科書を手にした子どもたちの姿を思い浮かべて力とし、これからの教科書づくりに励んでいきたいと思えます。

さて、巻頭言の表題を「風のいろ」としました。みなさんにとって今日の風は何いろでしょうか。「風にいろはないでしょう」と思う方もいるかもしれません。ある美術の先生から園児が描いた風の絵の話の話を聞きました。風について対話をしながら想像力を膨らませて、子どもたちはそれぞれの風を描きます。絵には一人ひとり違う風のいろがありました。

従来の歴史学習はこれと対極にあったように感じます。答えを教科書から探して重要語句を暗記するような学習が、歴史離れを招いてきました。子ども自身の感じ方、考え方を尊重し、多様な発見や疑問が出るように、学び舎教科書2021年度版ではさらに内容を深めました。子どもの気づきから授業が始まり、さまざまな風のいろが教室に現れた時、子どもの学びは深く広がっていくことでしょう。

目次

風のいろ 虹いろの風が吹く教室	山田 麗子・・・2
今・学校で・教室で	
四半世紀、5000人の生徒が訪ねた「発信地で 発信者に聴く旅」	川口 重雄・・・3
交流の広場	
・現代史をともに考えるー東村山での試み	野口 明・・・4
・たしかにあの時代を生きた人びとがいた！	小川 碧・・・5
・「無名の人びと」がつくる歴史を学ぶ	北川直実・齋藤りつ子・・・6
・府中とつながる歴史を「学び舎教科書」でつかむ	大山 早苗・・・7
歴史の窓 感染症と近代日本ー「衛生警察」をめぐって	大日方純夫・・・8
学びを深める 第2回 もし、あなたのバイト先が「ブラックバイト」だったら	菅間 正道・・・9
随想 連載② 東京国立博物館の魅力	黒田 貴子・・・10
読者の声	・・・11
学ぶ会からのお知らせ	・・・12